業務棚卸表（事後評価表）

A表

年度	平成18年度

基本目的 ９　　行政機能が高くなる

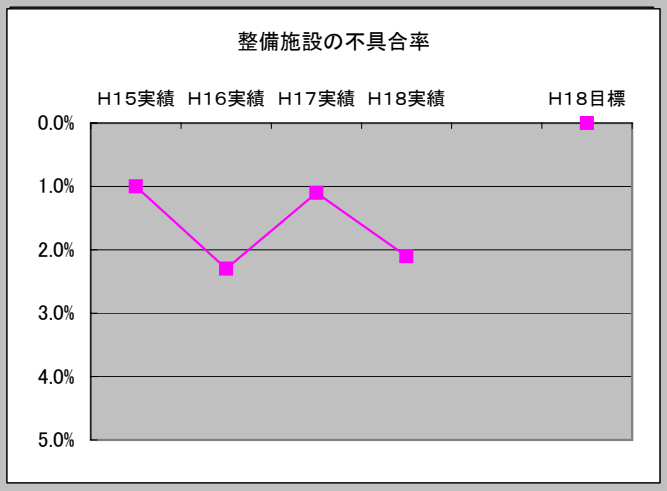
行動目標 ９－２　公正で効率的な行政運営を行う　　（所管課名　都市整備部営繕工務課）

任務	市民に安全で使いよい公共建築等を提供する	達成度	☆☆☆

任務の成果・活動指標の推移

整備施設の不具合率

H15実績	1.0%
H16実績	2.3%
H17実績	1.1%
H18実績	2.1%
H18目標	0.0%



指標の説明

前年度に完成した施設を、建築は屋根・外壁・建具・内装など部位ごとや機能面から、電気設備と機械設備も機能面の現地調査や施設管理者に聞き取りを行い、設計上や施工上の不具合を調査し、次年度の設計・施工監理に反映させ、0%を目標とし、安全で使いやすい公共建築物の提供する指標として掲げた。

○ 任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成18年度実績

○平成17年度に整備を行った42施設の現地調査及び施設管理者に聞き取り調査を行った結果、施設運営等に支障をきたす不具合は調査対象の建築・電気・機械併せて97件のうち建具の機能面での不具合が2件であった。（建具が外れやすい、施錠が困難であるという内容であった。いずれも調整対応済みである。）

今後も調査結果の要因を分析し、設計・監理へ反映させ、より安全で使いよい公共建築物の提供に努める。

平成19年度見通し

○不具合率を0%に近づける。また、使い勝手など聞き取り調査により改善すべきものは設計に取り入れ、より安全で使いやすい公共建築物の提供に努める。

これからの課題、施策等展開の方向性

○公共建築物の長寿命化に向けて関係部課と協議を進め、ストックマネジメント基本方針の素案づくりを行う。また、営繕業務の内、外部委託が可能な部分については、外部委託を継続する。さらに、ストックマネジメントの導入やその他の課題に迅速に対応できる組織体制とするため、実施組織の整備について検討する。

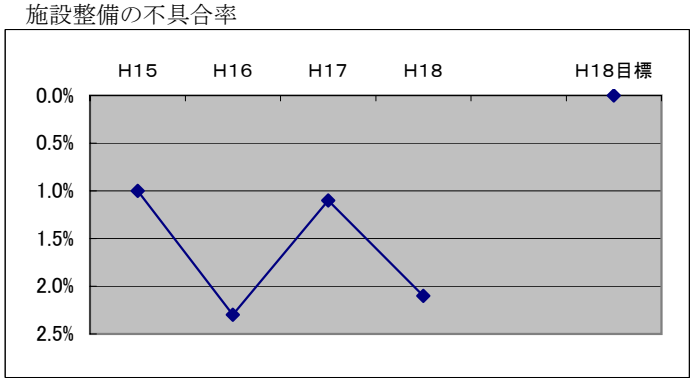
業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成18年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
1	利用者の視点に立った設計・工事の監督	整備施設の不具合率	H15実績	1.0%	☆☆☆
			H16実績	2.3%	
			H17実績	1.1%	
			H18実績	2.1%	
			H18目標	0.0%	

施設整備の不具合率



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰの配慮、環境負荷の低減（材料・工法の検討）に努めた設計・工事の監理ついては目標を達成できた。利用者のニーズについても42施設の現地調査及び施設管理者に聞き取り調査を行い、97件のうち施設運営等に支障をきたす不具合は2件、不具合率2.1%であった。目標の0%は達成できなかったが、引き続き0%に近づけるよう努める。（不具合部分は修正済み）

平成19年度見通し

○バリアフリーの配慮、環境負荷の低減（材料・工法の検討）に努めた設計・工事の監理に今後も努めると共に、不具合率を0%に近づける。また、使い勝手など聞き取りにより改善すべきものは設計に取り入れ、より安全で使いやすい公共建築物の提供に努める。

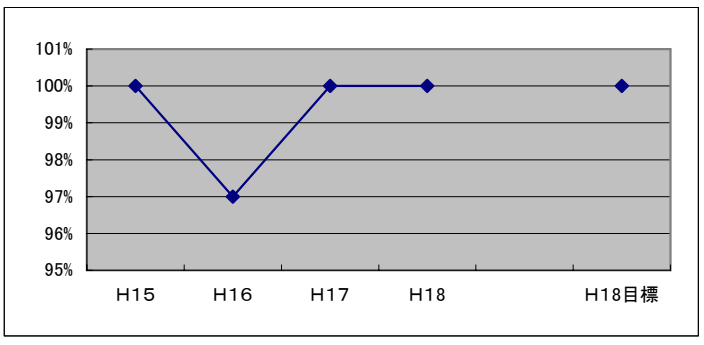
事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
				0
				0
				0

これからの課題、事業展開の方向性

○同じ不具合を発生させないためにも、過去の事例を課題とした研修を行い、職員の技量確保に努める。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
2	コスト管理に基づく設計・工事の監理	縮減件数率＝コストの縮減に配慮した工事件数÷工事件数（設計金額500万円以上）	H15実績	100%	☆☆☆
			H16実績	97%	
			H17実績	100%	
			H18実績	100%	
			H18目標	100%	

縮減件数率



基本的な手段に対する評価

平成18年度実績

○イニシャルコスト、ランニングコストの縮減を対象工事について配慮することができた。
○イニシャルコストの縮減については、目標値4%に対して5.3%であり目標を達成できた。

平成19年度見通し

○イニシャルコスト、ランニングコストの縮減を対象工事についてすべて配慮し、コスト管理に基づいた設計を見直し、イニシャルコストの縮減率5%以上を目標とする。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引
				0
				0
				0
				0
				0

これからの課題、事業展開の方向性

○ライフサイクルコストを見据えた、公共建築物の長寿命化の基本方針の策定が課題である。

業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成18年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度	基本的な手段に対する評価
3	維持保全計画の立案に向けての基礎調査	ストックマネジメントの導入検討	H15実績	―	☆☆	**平成18年度実績** ○既存施設の有効活用や長寿命化を図るため関係課（管財課、教育施設課）と協議を行った。全庁的な方針の策定や組織・体制の見直しまでの協議に至らなかったが、今後もストックマネジメントの導入に向け、引き続き協議を進める。
			H16実績	13施設の中期修繕計画作成		
			H17実績	前年度の検証・今後の方針検討		
			H18実績	関係課と組織・体制について協議		
			H18目標	関係課と組織・体制について協議		**平成19年度見通し** ○ストックマネジメントの導入にむけた、組織・体制の見直しを含め、関係部課との協議を引き続き行う。

事業名	H17決算	H18予算	H18決算	決算差引	これからの課題、事業展開の方向性
				0	○既存施設の有効活用や長寿命化を図るため、ストックマネジメントの導入や定期点検制度等行政が取り組むべき諸課題に対応できる組織・体制づくりにむけ、関係部課と協議を進め、平成20年度での実施組織の整備について検討する。
				0	
				0	